

【学校教育目標】
思いやりの心と確かな学力、自主・自律の精神を身につけた児童の育成

【本年度の重点目標】自分の考えをもちまとめ表現する力、決まりを守り進んで挨拶ができる、自分の健康をよりよく改善できる、地域の人材・施設・行事等の活用によるふるさとを大切にできる児童

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織運営	校内組織運営の充実	1 職員の協働体制を充実する。 (結果)分掌部会の事前に管理職と部長との協議を行い、部会における話し合いの視点と役割分担の明確化を図ることができた。教員のAB評価 79%	3 <input type="checkbox"/> 開かれた会議の中で、色々な意見を出し合い、精査し、成果が出るようにしてほしい。	<input type="checkbox"/> それぞれの組織における取組のねらいの共有と具体策の更なる具体化及び役割の明確化を推進する。
		2 PDCAのサイクルによるマネジメントを行い、改善につなぐ。 (結果)「CAP・Dシート」を活用し、月ごとの具体策を係ごとに明確にした。そして、確実に実行できたかの評価と改善を明確にし、月ごとのサイクルを回してきた。教員AB評価 77%	3 <input type="checkbox"/> PDCAサイクルがうまく循環しているようなので、継続してほしい。	<input type="checkbox"/> 「CAP・Dシート」の活用を継続する。教育指導計画書の計画との整合を確かめたり、付加修正を加えたりすることが必要。
		学力向上プランの推進を図る。 (結果)習熟度別分割授業、基礎基本の定着を図る取り組み、MIMや漢字・算数検定を実施でき、成果が見られた。週末課題の自己選択・個別化の取組が継続できた。教員AB評価 81%	4 <input type="checkbox"/> くり返しの指導の充実を図り、継続してほしい。客観的なデータで成果を知りたい。	<input type="checkbox"/> 習熟度別授業、MIM、漢字・算数検定は継続実施。 <input type="checkbox"/> 週末課題の自己選択・個別化も継続実施。効果的な自己選択に向けた指導が必要。 <input type="checkbox"/> 家庭学習の指導については、達成目標に届かなかった。組織としての取り組みであることを再確認する。
		いじめ問題に組織的に取り組む。 (結果)いじめ・生活アンケートを計画通り実施できた。毎回、係が集約することで、児童の様子を把握してきた。いじめの事案が発生したが早期発見・早期解決できた。アンケートの内容を改善できた。教員AB評価 85%	4 <input type="checkbox"/> 望ましくない言動については、速やかに対処することが大切。 <input type="checkbox"/> SCの活用や相談窓口の周知、自分を大切にすることをわかりやすく子どもに伝えてほしい。	<input type="checkbox"/> 「SOSの出し方に関する教育」を実施する。 <input type="checkbox"/> 保護者と学ぶ学習を設定する。 <input type="checkbox"/> 教育相談週間を保護者にも知らせる。 <input type="checkbox"/> 心の教育を推進する教育課程編制の実施。
		総合所見 学力向上推進委員会を中心として、短期検証改善サイクルを循環できた。データをもとにした取り組みを継続する。生徒指導委員会も定例実施でき、不登校・不登校兆候の児童についての共通理解を進めることができた。各部の推進については、CAP・Dシートにより取り組みの進捗を確認しながら進めてきた。来年度も取組を継続する。		
		やさしい子	やさしい子	1 「学校は楽しい。」という子どもを育成する。 (結果)多くの児童が学校は楽しいと答えている。児童AB評価 95% 教員AB評価 90%【総合 93%】
2 縦割りで楽しく活動する子どもを育てる。 (結果)コロナ禍ではあったが、高学年が主体的な活動を創造し、ふれあいができる縦割り活動が実現できた。そのつど、グループや班を単位にふり返りを行うことができた。児童AB評価 93% 教員AB評価 79%【総合 86%】	4 <input type="checkbox"/> コロナ禍の制限のある中、工夫して縦割り活動を行ったことがよかった。			<input type="checkbox"/> 各学年の発達の段階に応じた縦割り活動における立ち位置を整理し、個人としての振り返りを充実させる取り組みを継続する。
3 自分から進んであいさつをする子どもを育てる。 (結果)あいさつ週間を設けて委員会が中心となり、朝から昇降口前に立つことができた。児童AB評価 90% 教員AB評価 81%【総合 86%】	4 <input type="checkbox"/> 校内では挨拶をしているようだが、校外では挨拶ができていないようだ。挨拶の大切さを指導してほしい。			<input type="checkbox"/> あいさつ週間は、継続実施。 <input type="checkbox"/> 道徳科における学習を充実させ、挨拶の価値をしっかりと学習させる。そして、生活の中で実践し、評価できるようにする。
4 人が傷つく言葉を言わない子どもを育てる。 (結果)全校で言葉についての学習が実施できた。児童の実態から、保護者にも啓発する手紙を出した。児童AB評価 90% 教員AB評価 79%【総合85%】	4 <input type="checkbox"/> 気長にじっくり指導を続けてほしい。			<input type="checkbox"/> 道徳教育、人権教育を充実させ、言葉の重みについて考えさせる。
5 「ありがとう」「ごめんなさい」「はい」が素直に言える子に育てる。 (結果)言葉の大切さについて、学年に応じた指導ができた。個の特性に応じた対応が必要である。児童AB評価91%教員AB評価81%【総合 86%】	4 <input type="checkbox"/> 人間関係作りにつながることで、継続的に指導してほしい。			<input type="checkbox"/> 素直に生きることの素晴らしさを道徳科・道徳教育の中で理解させる。道徳教育推進教師を中心として取り組みの評価・改善を図る。
総合所見 6年生が最上級生としての意識を高め、縦割り活動に向き合うことができた。コロナ禍で行事ができない状況の中、6年生が中心となり、工夫してみんなで楽しめる活動をたくさん生み出していくことができた。言葉遣いのトラブルを全校の課題ととらえ、みんなで考えあう学習ができた。				

教育課程	まなぶ子	1 授業では、自分の考えをいかしたり、発表したりできる子どもに育てる。 (結果)自分の考えを書く、表現する基となる思考力を付けるため、主題研修として思考活動の設定に全職員で取り組み、実践を交流することができた。児童AB評価 85% 教員AB評価 70%【総合78%】	3	<input type="checkbox"/> 取組を継続する。	<input type="checkbox"/> 週案に活動構成の工夫が見えるようにする。
		2 図書館の本をたくさん読むことを育成する。 (結果)「うちどく」の取組、図書委員会の活動、てんとう虫号、読み聞かせ、読書習慣の確立につながる取組を実施できた。児童AB評価 79% 教員AB評価 77%【総合 78%】	3	<input type="checkbox"/> 取組を継続する。	<input type="checkbox"/> 継続実施する。 <input type="checkbox"/> 教科学習における図書の活用を促すとともに、読んだ本の記録を忘れないようにさせる。
		3 家庭で約束の時間、学習できる子どもを目指す。 (結果)家庭学習の時間が守れている児童は80%。土日に学習できている児童が85%。嘉麻市の目標指数をクリアできなかった。児童AB評価88% 教員AB評価75%【総合 82%】	4	<input type="checkbox"/> 家庭との連携を深め、児童自身に学習の必要性を理解させて学習するのが当たり前である雰囲気を作りたい。	<input type="checkbox"/> 週末課題の個別化を継続する。 <input type="checkbox"/> 家庭学習時間徹底の指導、内容の最適化を図る。 <input type="checkbox"/> 家庭への啓発を強化する。 <input type="checkbox"/> 課題を児童に把握させる手立てを工夫する。
		4 下山田や嘉麻市の「ひと・もの・こと」を活用して、地域のことを楽しく学ぶ子を育てる。 (結果)新型コロナ感染症対策により、地域の方との交流や地域資源の活用が制限された。視聴覚機器や関係資料等を活用することで補った。児童AB評価96% 教員AB評価73%【総合 85%】	4	<input type="checkbox"/> 新型コロナ終息を待ちたい。	<input type="checkbox"/> 「社会に開かれた教育課程」として評価・改善を継続していく。 <input type="checkbox"/> 公民館との情報共有に努める。
		総合所見 社会に開かれた教育課程の実現をめざし、コミュニティースクールの推進を図るための地域資源の活用について、教育課程の中に位置づけて編成する。家庭学習の指導については、担任間で格差が生じてしまった。学力委員会でPDCAサイクルを回し、特に「D」の徹底を図るようにする。コロナによる影響で「書いて考える」活動を保証できない部分があった。			
だいたくましい子	まなぶ子	1 学校を休まないように気をつける子どもを目指す。 (結果)2月時点で、不登校児童1。不登校兆候児童3名。児童AB評価98% 教員AB評価85%【総合 92%】	4	<input type="checkbox"/> こどもの話をよく聞いて、寄り添っていく指導を心掛けてほしい。	<input type="checkbox"/> アクション3に基づく取組を再確認し、継続する。
		2 元気よく外で遊ぶ子どもを育成する。 (結果)休み時間は外で遊ぶ姿が多く見られる。体育委員会や学級での取り組みの工夫により、みんなで元気に遊ぶ取り組みが継続・発展した。児童AB評価 88% 教員AB評価 85%【総合 87%】	4	<input type="checkbox"/> 取組を継続する。 <input type="checkbox"/> 運動が好きな子も嫌いな子もいる。休み時間には好きな居場所を作ることが大切。	<input type="checkbox"/> 体力アップシートの活用により、外遊びを推奨する。 <input type="checkbox"/> 子どもの創意工夫した活動を活かしていく。 <input type="checkbox"/> 子どもの意見を取り入れていく。
		3 掃除の時間、一生懸命がんばる子どもを育成する。 (結果)掃除頑張り週間の設定では、主体的に掃除の活動を展開できた。児童AB評価 91% 教員AB評価 75%【総合 83%】	4	<input type="checkbox"/> 継続してほしい。	<input type="checkbox"/> 校舎内外のどこが汚れているのかを意識する活動を仕組む。
		4「早寝・早起き・朝ごはん」ができる子どもを目指す。 (結果)PTA活動ができなかったため、学校の取り組みとして「早寝」に焦点化して省メディアの指導を継続した。児童AB評価 84% 教員AB評価 80%【総合 82%】	4	<input type="checkbox"/> 朝ご飯を食べてきていない子を把握し、様相観察を続けてほしい。	<input type="checkbox"/> PTAの「新家庭教育宣言」の取組を有効活用しながら、家庭への啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 省メディアの学習の実施を継続する。
		5 安全に注意して登下校できる子どもを育成する。 (結果)大多数の児童は、安全に気をつけて生活できている。児童AB評価 97% 教員AB評価 95%【総合 96%】	4	<input type="checkbox"/> 分団登校を継続する。どこが危険かをみんなで話し合って、安全に気付けさせるとよい。	<input type="checkbox"/> 交通安全教室・防犯教室等)を活用しながら、日常の安全教育を徹底する。 <input type="checkbox"/> 毎月の登校指導日に、安全確保の観点で点検する。
総合所見 コロナ禍であったが、交通安全教室を実施することができた。登下校時には保護者や地域の方の協力が得られている。生活の評価・改善については、強化週間を節目としながらも、日々、自らの生活を省みる態度の形成を目指す。また、個に応じた指導や対応について、継続していく。					